六時半より各爭議本部、各區本部、友愛會神戸聯合會に對して幹部檢束の實行方法を協議し同夕六時五十分相生橋、湊川兩署の制私服警察官百數十名は一齊に湊町美術倶樂部の川崎爭議團本部を包圍したり。折柄同所には幹部會議中の爭議團幹部野倉、井上氏等百三十餘名及賀川豐彦氏あり。踏込みたる刑事及巡査の一隊は、立たんとする者を十手を揮うて毆打し、所在幹部と覺ゆる者を一人の亂闘起るや、賀川氏は、「坐れ、坐れ」と號令したり。亂闘の跡に五十二ヶ所の流血の痕を東京帰朝十團が指摘せるに徴するも、刑事が如何に理不盡なる暴行を爲せしやを想察し得。賀川氏が幹部に坐居を命ずるや、刑事團は恰もよし同倶樂部にありし爭議團運動會用の繩を以て縛し、賀川氏の如き靴を穿くの邊をよく與へられず足袋裸足のまゝに引かれたり。即ち一部は自働車を以て相生署に、一部は珠數繋ぎとして徒歩湊川署に檢束、夜を徹する取調を開始されたり。猶警官隊中の一部相生橋、湊川兩署巡査三十名は塚本通友愛會神戸聯合會を襲ひ須々木氏外六名を檢束湊川署に送り、更に各區本部、三菱爭議團第二五助倶樂部にも手を延ばし爭議職工團、友愛會神戸聯合會の幹部三百餘名は悉く官憲の爲檢束せらるゝに至れるなり。尚檢束と同時に聯合會及川崎爭議本部内の書類全部を押收せられ爭議團本部は警官隊のため占領せらるゝに至れり。

嵐の如き大檢擧は敢行されたり。警察部が神戸の治安を維持するためには、爭議團の幹部を拔き去りて、其結束を切り崩すの外なしと思惟せるは一毫の疑ひをも要せざるところなり。而して是が辯明のため、且は宣傳のため警察部長は二十九日の神社參拜に、川崎職工中最過激なる電正會を以て先陣としたるは明に川崎襲撃の意志ありしものとなし、爭議團本部の命令が徹底せるは、爭議團本部が煽動のため存在するを証するものとなせるは意義をなさゞるの辯なりと一般に認められたるが如し。

今や神戸爭議團は此大檢束によりて全く中樞を失ひ精心的本據を亡ぼされ、且職工各自の安寧を脅威さるゝに到れり。實に神戸爭議の敗因は茲に存すと云ふを得ると共に、又一方、警察の態度にして常にかくあればこそ、各地の勞働爭議が稍もすれば破壞的行動を急ぐの心境に陷ると見得ざるに非ず。